

## 第2回江東区都市計画マスタープラン 2022 推進会議【会議録】

開催日時	令和4年7月27日(火)午前10時00分		
開催場所	オンライン開催(Zoom)		
出席者 (敬称略・順不同)	<b>【委員】</b> <委員長> 志村 秀明 <委員> 村木 美貴、市古 太郎、川内 美彦、森本 章倫、柳井 重人 <b>【区職員】</b> 都市整備部長、都市計画課長、まちづくり推進課長、地域整備課長、 沿線まちづくり担当課長		
<b>【議題】</b>		<b>【所管】</b>	
(仮称)地下鉄8号線沿線まちづくり構想について		沿線まちづくり担当	
<b>【議事概要】</b>			
No	該当資料	委員の意見要旨	区の回答要旨
1	資料1	アンケート集計および分析(案)における無回答の割合が高い質問については、無回答を全体の回答から除いて集計および分析すべきである。	無回答を除いた分析とすることの可否について検討する。
2	資料1	ワークショップでは、駅や拠点における機能や使い方を議論することが大事である。	ご意見を参考とさせていただきます。
3	資料1	ワークショップの公募に対する応募者数が多く、地下鉄 8 号線への関心が高いことから、継続してフォローしていくことが大事である。	機運を醸成するイベントや住民説明会等を開催し、延伸を見据えたまちづくりに関する情報発信等を継続していく。
4	資料2	沿線まちづくり構想では、基盤整備として何をどこまで表現し、提案するのかを事前に検討しておくべきである。	沿線まちづくり構想の段階では、駅前ロータリー等の具体的な表現はせず、たまり場・空地・災害拠点等の概念のみを表現するものと考えている。
5	資料2	駅前広場は転換期にあり、例えばタクシープール等の機能が、今後不要となる可能性があると思う。	各駅周辺のまちづくりを検討する際に参考とさせていただきます。
6	資料2	GIS データを活用するなど、新駅の利用圏域を地図上で解析し表現すると良いと思う。	現況整理の手法として、GIS等を活用した定量分析や解析を検討する。
7	資料2	国では、駅と駅前広場だけでなくその周辺も含めて駅まちづくりとする「駅まちデザイン」を提言しているため、その資料が参考になると思う。	「駅まちデザインの手引き」の内容を確認し、沿線まちづくり構想の策定に活かしていく。
8	資料2	駅まちデザインについては、まず客観的なデータ分析をもとに区としてのスタンス	地区まちづくり方針策定の段階に至った際に、区の

		を持ち、そのうえで地域住民との対話を進めることが大事である。	スタンスを明確に示していくことを想定している。
9	資料2	地域住民の意見を吸い上げるボトムアップ的な視点と、沿線まちづくりという1つのルート上の議論におけるトップダウン的な視点の両方を重層的に考える必要がある。	地域の意見を伺いながらも、区としてのスタンスを持ち、2つの視点を並行して検討していくべきと考えている。
10	資料2	次世代交通あるいはDXに関連する新技術などについて、どのような形で計画に反映するか議論する必要がある。例えば、東京都が令和4年3月に「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方」を公表しているため、その資料が参考になると思う。	新技術に関する計画について必要性や有用性を検証し、沿線まちづくりにどのように反映することが適切かを検討していく。
11	資料2	ワークショップにおいて、例えば、「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方」などの資料を参考に、駅前広場についての設計をすべて固めずに、将来に対する不確実性を少し残すといった議論になることも期待できる。	ワークショップの進め方について、ご意見を参考に検討していく。